

## ORCHESTRA 65+ (オーケストラ 65 プラス) 参加メンバー募集要項

KAJIMOTO エル・システマ室は、音楽による無償の青少年教育プログラム「エル・システマ」の理念に共感し、日本でもエル・システマのようなプロジェクトへの理解を深めるため、これまでに、シモン・ボリバル交響楽団(2008年)、ユース・オーケストラ・オブ・カラカス(2013年)を招聘して日本ツアーを実施。シンポジウムやワークショップも開催して参りました。本年11月には、テレサ・カレーニョ・ユース・オーケストラ(TCYO)を初招聘し、東京では通常のコンサート2公演の他に、ワークショップを開催します。『50歳からの！12時間でシンフォニーに挑戦しよう！』です。

これまで青少年を対象にしてきた「エル・システマ」ですが、今回このワークショップでは、同時に以下2つの試みを行いたいと思います。今回募集するのは、②の「ORCHESTRA65+」(O65)のメンバーとして参加して下さる音楽家です。

1. 50歳以上の楽器未経験者を対象に、楽器、指導、練習場所を無料で提供。  
1日4時間×3日間の練習で交響曲の演奏に挑戦し、最終日には、来日するユース・オーケストラのメンバーの一部と舞台上で共演する。受講者は公募制で募集中。定員は、各楽器2名(ヴァイオリン、チェロ、フルート、クラリネット、ホルン、トランペット、トロンボーン、打楽器)。(8月末現在、残る枠は7名。)

2. 65歳以上のベテラン音楽家が一同に会し、1回限りのオーケストラ「ORCHESTRA65+」として出演し、合奏を披露。先述の初心者受講者が客席で見学する。合奏の楽しみや、「まだまだやれる！」という情熱を、聴覚的・視覚的に魅せて頂く。最後には、来日するユース・オーケストラのメンバーと、初心者受講者と共に合同演奏を行う。

### 【ワークショップ企画趣意】

総人口の25%が65歳以上となった日本では、65歳以上の方々の「生きがい」は大きなテーマとなっています。定年退職を迎え、人生の次のステージへ向かう前に、喪失感等から自ら死を選ぶ人も少なくありません。個々の社会的・経済的背景に関係なく合奏を楽しみ、コミュニティに属することで自己の存在意義を感じるということ。エル・システマのような地域に根ざした持続的な活動は、日本における高齢社会問題の解決の一助となるのではないかと、そうした議論を今後広く日本社会で活発化させるために、本ワークショップを企画します。

### 【ORCHESTRA65+今後の可能性】

このオーケストラは、高齢社会問題に直面する日本における、1つのモデルケースとして、本ワークショップにゲスト出演する1回きりの試みですが、これをきっかけとして将来以下のような現象が起こることを想定しています。

1. 将来的に、居住地域ごとに、地域に根ざした形でシニアオーケストラが組織され、「ジュニア」に加えて輝く「シニア」の育成を願う自治体、企業、一般大学および音楽大学、コンサートホール等が、シニアオーケストラのレジデントオーケストラ化を検討する。定期的な練習と本番の為に、演奏場所を無料で提供し、大型楽器の貸出も行う。
2. 高齢社会問題先進国の日本が、活動を行っている団体を、2020年東京オリンピック、パラリンピック文化プログラムの一つとして紹介する。

## 【指揮者・コンサートマスター紹介】

### ●指揮者:

クリスティアン・バスケス(TCYO 音楽監督)

Christian Vasquez, Conductor

テレサ・カレーニョ・ユース・オーケストラ・オブ・ベネズエラ音楽監督。

1984年カラカス生まれ。9歳でサン・セバスティアン・デ・ロス・レジェス交響楽団にヴァイオリン奏者として加わる。2006年、ホセ・アントニオ・アブレウのもとで指揮を学びはじめ、ほどなくホセ・フェリクス・リバス記念アラグア青少年交響楽団の音楽監督に就任。2008年4月、シモン・ボリバル交響楽団でマーラー交響曲第2番を指揮しデビュー。

これまで、フィルハーモニア管弦楽団、ウィーン放送交響楽団、トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団、イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団等他にも多数のオーケストラに客演している。2013年に同オーケストラを率いてザルツブルク音楽祭に出演。最近ではロンドン、リスボン、トゥールーズ、ミュンヘン、ストックホルム、イスタンブールなど4度目の欧州ツアーにも導いた。エル・システマ出身で、ドゥダメルに続く次世代の指揮者として、その実力への期待は欧州にも広まっている。



### ●コンサートマスター:

リラ・ビバス (TCYO コンサートミストレス)

Lila Vivas

モンタルバンの幼少アカデミーにてスーザン・シマンとルベン・コヴァ師匠のもと、音楽の勉強を始める。

2001年1月にマリア・フェルナンダ・モンテロが率いる、南米ヴァイオリンアカデミーへ入学。2001年7月、国内ヴァイオリン・コンクール”モーリス・ハッソン”にて2位受賞。2007年、国内ヴァイオリン・コンクール”フアン・ヴァウティスタ・プラサ”にて2位受賞。2011年にはファルコン州のコロ市で同市の管弦楽団のソリストとして登場。TCYOのコンサートマスターも務める。

TCYOとは世界ツアーに参加し、ドイツ、オーストリア、スペイン、イギリス、オランダ、フランス、リヒテンシュタイン、ノルウェーで公演。2013年にはザルツブルク音楽祭にも参加した。シモン・ボリバル交響楽団の世界ツアーにも招待され、ヨーロッパ、米国、南米、アジアで共演してきている。2013年5月、カラカス市で開催された国内音楽コンクール”マリア・パウラ・アロンソ”で3位受賞。2014年には同コンクールで優勝した。

## 【エル・システマとは】

1975年、ホセ・アントニオ・アブレウ博士の提唱により、ベネズエラで始まった、音楽による無償の青少年教育プログラム。子どもたちは、政府支援のもと、個人ではなく集団での音楽活動を通じて、社会性と自己の個性の表現力を身に着ける。音楽家の輩出や、音楽的な技術の向上が目的のプログラムではなく、あくまでオーケストラ活動を通じた人材育成であるが、熱心な練習量によって磨かれた高い音楽性と、音楽で社会を変革する理念は世界中で注目され、現在世界52カ国以上に展開している。日本では震災により苦しい立場に置かれている子どもたちを対象に、2012年に福島県相馬市、2014年に岩手県大槌町でスタートした。

## 実施概要

### ●参加資格:

- 1.企画趣意に共感して頂ける、原則 65 歳以上の元プロ奏者
- 2.熱心な演奏活動を続けて来られた原則 65 歳以上のアマチュア奏者
- 3.企画趣意に共感し、運営経費を寄付して下さるアマチュア奏者(65 歳以下も可)

### ●参加料: 無料

### ●募集人数: 弦楽器 14 型(14-12-10-8-6)、管楽器は各倍管での演奏を予定しています。

※「マイスタージンガー」の演奏に必要な人数を、最低限の定員とします。

### ●曲目:

- 1.ワーグナー:「ニュルンベルクのマイスタージンガー」第1幕への前奏曲  
→(O65 単独演奏)
- 2.ベルリオーズ:「幻想交響曲」op.14 より 第4 楽章「断頭台への行進」  
→(TCYO メンバー約 50 名と、50 歳以上の初心者受講者&その指導者約 24 名、O65 の合同演奏)

※両曲とも、指揮者はクリスティアン・バスケス、コンサートマスターはリラ・ビバスが務めます。

### ●開催日程:

・2015 年 11 月 18 日(水) 19:00~20:30 予定

18:00 O65 メンバー東京芸術劇場集合。ステージセットができ次第音出し

19:00~19:45 O65 公開リハーサル、通し演奏 (ワーグナー)

19:45~20:30 TCYO メンバー、初心者受講者も一緒に入り、公開リハーサル、通し演奏(ベルリオーズ)

21:00~ 反省会(会費制・希望者。東京芸術劇場内または近郊)

※今回の出演者、このような課題に関心を持つ自治体、ホール、大学、企業の方々にも参加していただき、ORCHESTRA65+の今後の可能性について相談する。

### ●会場:

東京芸術劇場コンサートホール

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 1-8-1 電話:03-5391-2111(代)

### ●その他注意事項

- ・打楽器はこちらでご用意致します。コントラバスはご持参下さい。
- ・楽譜は、事前に郵送いたします。集合場所など詳細についても合わせてご連絡致します。
- ・客席には、事前に観覧をお申込みされた一般のお客様もいらっしゃいます。
- ・本ワークショップは記録撮影を行います。この記録撮影は非商用資料として使用させて頂く可能性がありますので、予めご了承くださいませお願い申し上げます。

主催:駐日ベネズエラ・ボリバル共和国大使館／東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)／一般社団法人エル・システムジャパン

招聘・企画:KAJIMOTO